

NHK > 首都圏ナビ > 首都圏ネットワーク > 横浜・港北区「街ににぎわいを取り戻せ」工務店の3代目が奮闘！

首都圏ネットワーク

横浜・港北区「街ににぎわいを取り戻せ」工務店の3代目が奮闘！



今回の「わがまちスター」は横浜市港北区で工務店を営む男性です。住宅の建設などを「なりわい」とする一方、あの手この手を使って街を活性化させようとして取り組んでいます。「家づくり」だけでなく「街づくり」に乗り出す理由、奮闘する男性取材しました。

※9月5日「首都圏ネットワーク」で放送

今回の「スター」は妙蓮寺駅近くに



東急東横線の横浜駅から4駅、横浜市港北区にある妙蓮寺駅の周辺は、昔ながらの商店が残る住宅街です。そんな街の一角に、地域密着で60年続く、住宅建設や不動産の仲介を手掛ける工務店があります。

今回の「わがまちスター」は、この工務店の3代目、酒井洋輔さん（46）。

酒井さんのある1日に密着しました。

活躍は家づくりだけじゃない！



この日、酒井さんが訪れたのは、建設現場ではなく「畑」。耕作放棄地だった土地を、地域の人が農作業で交流する場所として、酒井さんが再生させました。



次に訪れたのは、地元の「そば店」。昼ごはんかと思いきや、本当の目的はお店の取材です。

酒井さんは地域でイチオシの飲食店などの情報を発信するウェブサイトも運営しています。実は家づくりだけではなく、「まちづくり」で活躍する「妙蓮寺のスター」なんです。

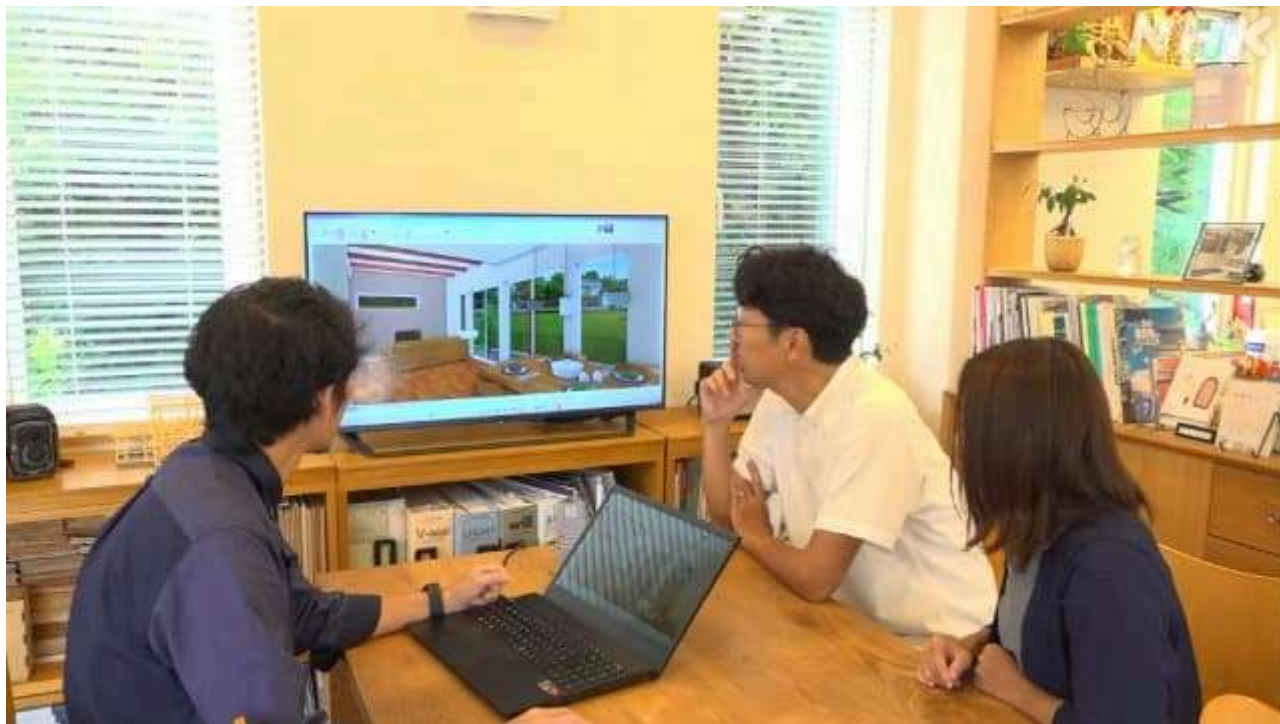


酒井さん制作のホームページ

「やれること一つ一つの施設とかは小さいけれど、それでも自分たちができることを街の人たちと一緒につくっていくことが楽しいし、大事だと思っています」



家業を継いで抱いた「危機感」とは



工務店で打ち合わせをする酒井さん

こうした活動をしようとしたのは、酒井さんが家業を継いだ6年前に抱いた「危機感」でした。高齢化などで「街がさみしい」と感じたことでした。

酒井洋輔さん

「地域にあった、昔ながらの個人店とか、少しずつ高齢化などで減ってきている時期もあって、寂しいと思っていました。街が魅力的でなければ、家を建てたいと思う人もいないのではないかな？お客様に対して心から“この町はいいですよ”と言えるにはどうしようと。この街に住んでよかった、楽しいなと思ってもらえたら

それが一番だと思っています。街が盛り上がれば、いつかはうちにも仕事ができるのではないかなとも思いました」



この5年間に酒井さんが手がけたプロジェクトは、駐車場の空きスペースを活用したキッチンカーの誘致や、古民家を改装したシェアオフィスなど、20を超えています。



街で70年以上続いてきたこの書店も、酒井さんが再生させた店の一つです。全国各地の街で書店が姿を消していくなか、この店も窮地に立たされていました。店主とは幼なじみだという酒井さんが提案したのは、店を改装するのではなく、雰囲気を残しながら「扱う本を変える」ということでした。



あえて売れ筋の本にはこだわらず、この店のスタッフたちが厳選した本だけを並べるセレクトショップにしたのです。その結果、雑誌で特集が組まれるなど、全国から客が訪れる店に再生しました。

「もう本当に厳しいなというところはありませんでした。心が折れずにこられているのは酒井さんのおかげです」



書店主

街の「御用聞き」として…



地元で生まれ育った姉妹は、酒井さんに物件を紹介してもらうなどして、去年（2023年）、立ち飲みバーを開くことが

できました。

「この妙蓮寺の街を元気に盛り上げていけたらと思います。酒井さん、これからもよろしくお願いします。がんばりましょう！」



酒井さんのまちづくりは、新たに移り住んだ人たちにも浸透しています。住宅地の一角につくった畑では、近くに引っ越してきた女性が、地域の人々と野菜を育てています。



富山出身

「何か地域の人とつながりが持てる場所があったらいいなと思って始めました。友達にも『妙

蓮寺は住みやすくて楽しめる場所』みたいな感じで紹介しています」

酒井さんの知名度も少しずつ広がり、いまではすっかり街の御用聞きのような存在です。



酒井洋輔さん

「街の主演は住んでいる人だと思っています。いろいろな人たちと関わりながら、これからも街づくりを頑張っていきたいなと思います」